

原子力災害からの福島復興の進捗について

平成29年3月

原子力災害対策本部

原子力被災者生活支援チーム

避難指示の解除と帰還に向けた取組①

平成27年6月12日閣議決定「原子力災害からの福島復興の加速に向けて」改訂：避難指示解除準備区域・居住制限区域について、遅くとも事故から6年後（29年3月）までに避難指示を解除できるよう、環境整備を加速

(1) 田村市：平成26年4月1日 避難指示解除準備区域を解除

転入等も含め人口の61%、世帯の67%※の方が居住<20km圏内>（平成29年1月末時点）。

※%は田村市の住民基本台帳ベースの人口・世帯に対する割合

(2) 楡葉町：平成27年9月5日 避難指示解除準備区域を解除

- ・ 全住民の方が避難した自治体としては初めての避難指示解除。
- ・ 人口の11%、世帯の16%※の方が帰還（平成29年2月3日時点）。

※ %は平成27年9月4日時点における楡葉町の住民基本台帳ベースの人口・世帯に対する割合

(3) 葛尾村：平成28年6月12日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

川内村：平成28年6月14日 避難指示解除準備区域を解除
(平成26年10月1日に、一部地域で避難指示解除を実施するとともに居住制限区域を避難指示解除準備区域に見直し)

南相馬市：平成28年7月12日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

(いずれも平成28年5月31日 第40回原子力災害対策本部会議で決定)

(4) 飯館村：平成29年3月31日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

(平成28年6月17日 第41回原子力災害対策本部会議で決定)

- ・ 平成28年7月1日から帰村の準備のための長期の宿泊を開始。

(5) 川俣町：平成29年3月31日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

(平成28年10月28日 第43回原子力災害対策本部会議で決定)

- ・ 平成27年8月31日から避難指示解除まで準備宿泊を実施。

(6) 浪江町：平成29年3月31日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

富岡町：平成29年4月1日 居住制限区域、避難指示解除準備区域を解除

(平成29年3月10日 第45回原子力災害対策本部会議で決定)

- ・ 富岡町は平成28年9月17日から、浪江町は平成28年11月1日から避難指示解除まで準備宿泊を実施

※「準備宿泊」は、避難指示の解除後、ふるさとの生活を円滑に再開するための準備作業を進めやすくするため、本来、避難指示区域内で禁止されている自宅等での宿泊を特例的に可能とする制度。

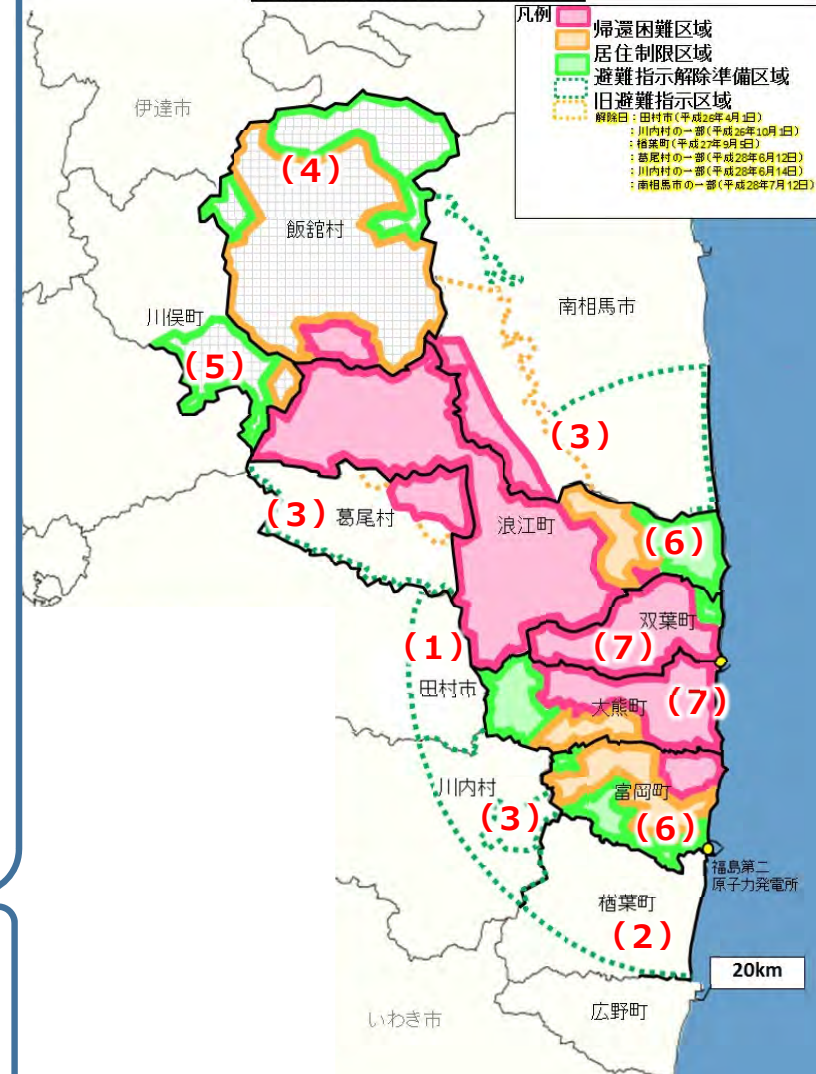
➡ 避難指示の解除後も政府一丸となり復興に向けた施策を展開。

本日決定

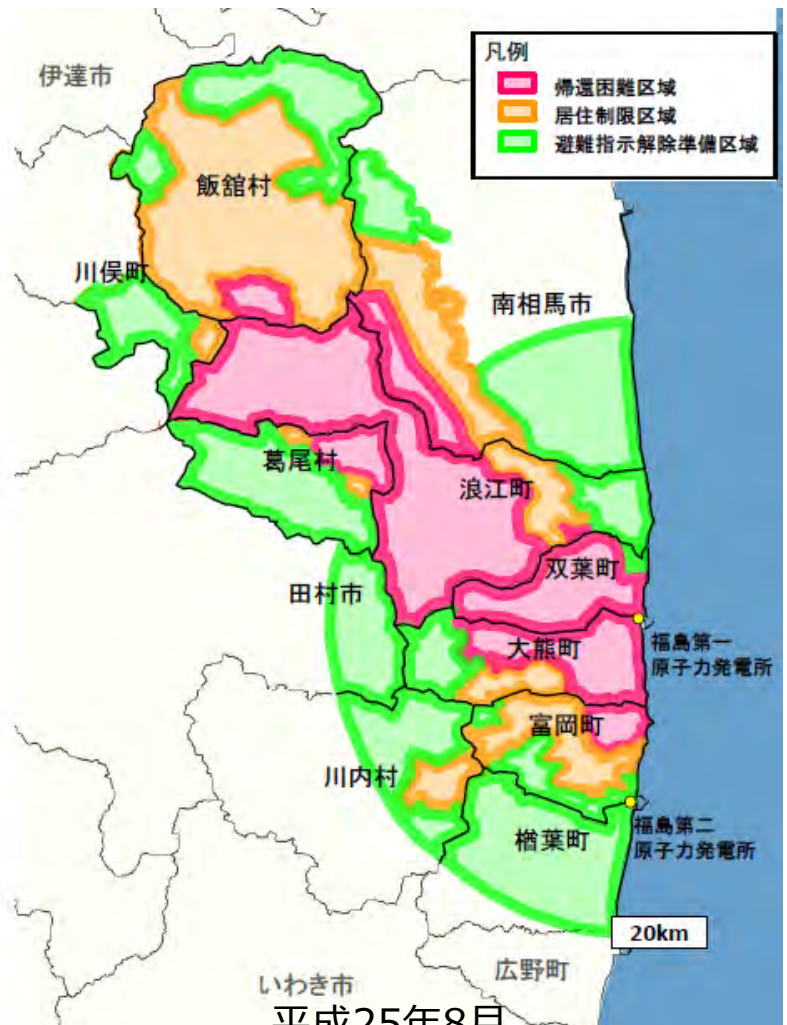
(7) 大熊町・双葉町（町の96%が帰還困難区域(人口ベース)）

- ・ 大熊町：平成28年8月11日～16日に特例宿泊を初めて実施。秋彼岸(平成28年9月21日～9月25日)においても実施。
- ・ 双葉町：平成28年12月20日に「復興まちづくり計画（第二次）」を公表。

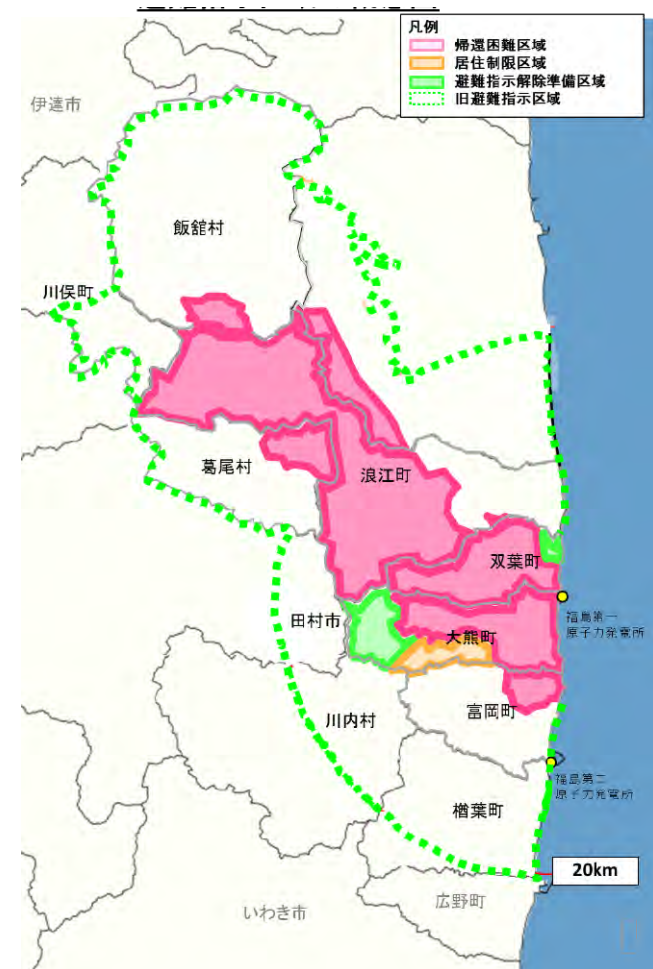
避難指示区域の概念図



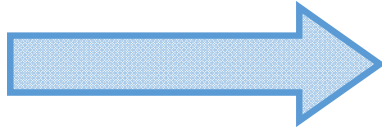
避難指示の解除と帰還に向けた取組②



平成25年8月
(区域設定時)



平成29年4月時点

避難指示区域からの避難対象者数	約8.1万人	区域設定時から約3年8か月 	約2.4万人 (約5.7万人減)
避難指示区域の面積	約1,150km ²		約370km ² (約780km ² 減)

(注)避難指示区域からの避難者数は、市町村からの聞き取った情報（それぞれ、平成25年8月8日時点、平成29年2月1日時点の住民登録数）を基に、原子力被災者生活支援チームが集計。

廃炉対策の進捗と今後の見通し

対策	2015年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
燃料取り出し	1号機  <p>ダストの飛散防止対策を実施後、建屋カバー撤去開始【2015.10時点で屋根パネルは全て撤去】</p> 	<p>建屋カバー撤去完了【2016.11】</p> 	<p><取り出し開始時（2020年度）のイメージ></p> 						
	<p>建屋カバー解体→ガレキ撤去・除染等→燃料取り出しカバー設置等</p>								
	2号機  <p>取り出しプラン選定に先立ち、2号機建屋上部の解体箇所の決定【2015.11】</p> 	<p>オペレーティングフロアへアクセスするための構台の設置開始【2016.9】</p> 	<p><取り出しプラン（2017年度決定）のイメージ></p> <p>プラン①（共用コンテナ室）  </p> <p>プラン②（燃料取り出し特化室）  </p>						
<p>準備工事</p>									
3号機  <p>(参考) 事故当初のオペレーティングフロア</p>  <p>使用済燃料プール内の最大のガレキ（約25t）を撤去完了【2015.8】</p> 	<p>取出装置の設置開始【2017.1】</p> <p>オペレーティングフロアの除染完了【2016.6】 遮へい体設置完了【2016.12】</p> 	<p><取り出し開始時（2018年度中頃）のイメージ></p> 							
<p>ガレキ撤去・除染→遮へい体設置→燃料取り出しカバー設置等</p>									
デブリ取り出し	<p>1号機</p> <p>宇宙線ミュオン内部調査【2015.5】</p> <p>「へび型」ロボット内部調査【2015.4】</p> 	<p>2号機</p> <p>「サソリ型」ロボット内部調査【2017.2】</p> 	<p>3号機</p> <p>ロボット内部調査に向けた事前調査を実施【2015.10】</p> 	<p>本格モックアップセンター（2016.4）</p> <p>前回の調査結果を踏まえ、詳細な内部調査を実施予定【2016年度内】</p> 	<p>宇宙線ミュオン内部調査【2016.7】</p> 	<p>水中ロボットを開発し、内部調査を実施予定</p> 	<p>デブリ取り出し方針決定（夏頃）</p>	<p>デブリ取り出し方法確定（上半期）</p>	<p>引き続き、国内外の叡智を結集し、研究開発を実施。</p>
	<p>原子炉格納容器内の状況把握／デブリ取り出し工法の検討</p>								
				エンジニアリング作業等	デブリ取り出し準備				初号機の取り出し開始

汚染水対策の進捗と今後の見通し

これまでの取組と成果 (～2017年1月)			今後の見通し		
近づけない	建屋への地下水流入量 約400m ³ /日 (2011.6～2014.5)	地下水バイパス稼働【2014.5～】 2017年1月までに排水量:約25万トン	サブドレン稼働【2015.9～】 2017年1月までに排水量:約27万トン	敷地舗装92%完了【2017.1時点】 約200m ³ /日 (2015.9～2017.1)	凍土壁(陸側遮水壁)閉合【2016.3凍結開始】 【2016.10海側凍結完了】 【2017.3山側未凍結1箇所を除き凍結中】 4m盤での汲み上げ量:凍結開始前の日量約400トンから約140トンまで減 建屋への地下水流入量を100m ³ /日未満に抑制
		約300m ³ /日 (2014.5～2015.9)		サブドレンの強化【2016.10～】 浄化設備の2系列化・汲み上げ井の復旧、増強、タンクの増設	
漏らさない	周辺海域の放射性物質濃度 ※南放水口付近のセシウム137の値 約1万Bq/L (2011.3)(月平均)	水ガラスによる地盤改良【2014.3】 これに伴いウェルポイントからの汲み上げを開始【2013.8】	海側遮水壁閉合【2015.10】 これに伴い地下水ドレンからの汲み上げを開始【2015.11】	溶接型タンクの増設【2017.1時点】 溶接型タンクは約85万トン(総容量約98万トンの約9割) 検出限界値(0.7Bq/L)未満 (2017.1)	タンク増設計画 新規増設やフランジ型タンクのリプレイス等により約54万トンを増設し、2020年までに約137万トンの溶接型タンクを設置予定。 フランジ型タンクの処理 二重堰の設置などの漏えい防止策や側板フランジ部への防水シール材等による予防保全策、1日4回のパトロール等を実施し、2018年まで使用を継続。
取り除く	敷地境界の追加的な実効線量 約11mSv/年 (2012.3)	タンク内汚染水の処理が概ね完了【2015.5】→累計約76万m ³ 更なるリスク低減の観点から、ALPS処理を継続	トレンチ内汚染水の処理が全て完了【2015.12】→累計約1万m ³ 1mSv/年未満 (2016.3達成)	ALPS処理水の長期的取扱いの検討【2016.9多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会設置】	
建屋内滞留水処理		1号機タービン建屋を循環注水ラインから切り離し【2016.3】	復水器内の高濃度汚染水処理1号機抜き取り開始【2016.10】	建屋内滞留水の放射性物質量を半減(2014年度末比)【2018年度内】	建屋内滞留水の処理完了【2020年内】

<その他>

- K排水路の港湾内への付け替え【2016.3】
- 一般作業服着用可能エリアの拡大【2016.3】
- 廃炉・汚染水対策に従事している作業チームへの感謝状授与【2016.4】
- 廃棄物の処理処分に関する基本的な考え方のとりまとめ【2017年度内】